

2016年(平成28年)6月27日(月) NO 99号

# K-PURO NEWS

## 【事業所】

◆	社名	株式会社 ケイプロ	<a href="http://www.k-puro.co.jp">http://www.k-puro.co.jp</a>
◆	商号	都市防犯プランニング社	mail info@k-puro.co.jp
◆	本社	埼玉県蕨市中央 1-7-1 シティタワー蕨	TEL 048-446-9445
◆	千葉支店	千葉県千葉市中央区新町 1-20 江澤ビル	TEL 043-243-6110

## 【業務内容】



機械警備事業	弊社独自のセキュリティプランニングに SECOM・ALSOK・CSP のインフラを使用
防犯カメラ設置	周辺環境・建物構造・人的要因・犯罪データを分析し有効かつ適正な位置へ設置
メンテナンス事業	消防設備点検・工事から AED 幹旋に至るまでのメンテナンス業務の取扱い

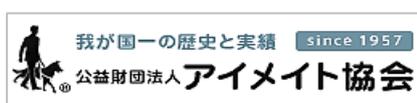


## 【加盟団体】

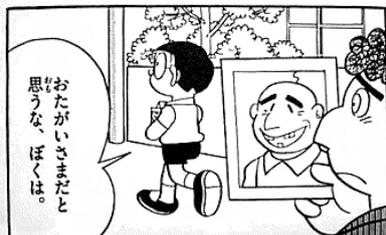


RID2770	川口モーニングロータリークラブ	<a href="http://www.h3.dion.ne.jp/~mrc/">http://www.h3.dion.ne.jp/~mrc/</a>
NPO 法人	さいたま起業家協議会	<a href="http://www.saitama-kk.org/">http://www.saitama-kk.org/</a>
公益社団法人	千葉東法人会	<a href="http://www.chibahojin.jp/">http://www.chibahojin.jp/</a>
一般社団法人	千葉市中央区倫理法人会	<a href="http://www.rinri-chiba.org/">http://www.rinri-chiba.org/</a>
公益財団法人	モラロジー研究所	<a href="http://www.moralogy.jp/">http://www.moralogy.jp/</a>

## 【応援団体・企業】



## ごあいさつ



お礼を言われると「お互いさまですよ」とつつましく答え、物事が無事に終わると「おかげさまで」と謙虚に感謝した先人たち。それは「支え合いの中で生きている」との自覚に基づく表現でしょう。自分が今日まで受けた多くの人の善意。

それを直接本人に返す「恩返し」が大切なことは言うまでもありませんが、「受けた善意を別の人に送る」という視点で周囲を見渡してみましょう。

世話が必要な子供は「誰もが歩んできた道」、手助けが必要なお年寄りには「誰もが歩む道」。

すべては「おたがいさま」「おかげさま」なのです。

代表取締役 木戸 良樹

## 今月の良い話 「親父の小言」

「親父の小言」をご存じでしょうか。

ご存じでない方でも

「火は粗末にするな」

「朝きげんよくしろ」

「神仏をよく拝ませ」

「人には腹を立てるな」

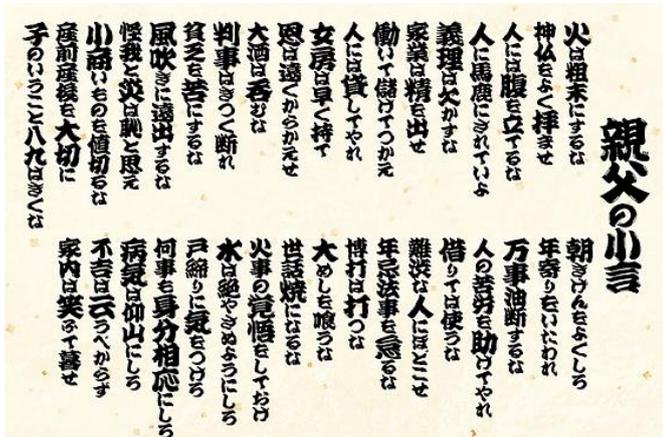
「人に馬鹿にされていよ」

「家業は精を出せ」

「年寄りをいたわれ」……

これらの言葉が全国の土産物の壁掛けや温泉場の手拭いなどに書かれ、売られているのを見た人は多いと思います。

実はこのもとになったのが私が住職を務める福島県浪江町、大聖寺の庫裡に掲げられた「親父の小言」の45の文章です。



数ある小言の中で私が一番好きなのは「人に馬鹿にされていよ」という一文です。

いろいろな人たちから

「怒ってはいけないという意味ですか」と聞かれますが、それだけではありません。

解釈は人によってまちまちでしょうが、私なりに「我以外、皆我が師」ということではないかと受け止めています。

例えば、嫌な人に出会った時、「嫌な人間だ」と煙たがるのではなく、その嫌な姿を見て

「自分はああはならないようにしよう」と自分の戒めとすることもその一つ。

知らないことは知らないと素直に教えを請うこともそうかもしれません。

とはいっても、実際行うとなるとなかなか難しいもの。

私もある程度、年をとったいまだからこそ、理不尽で道理にかなわない話であっても、人様の話に静かに耳を傾けられるようになったように思います。

それと「恩は遠くから隠せ」。

これは45の小言の中の目玉と言える言葉です。

世間に出回っている「親父の小言」は「恩を遠くから返せ」となっていますが、オリジナルは「隠せ」、つまり人に何か施しをしても自慢するな、お返しを求めない、陰徳を積みという意味が込められています。

これも常に私の指針になってきました。

父が亡くなる3日前、私は父の枕元に呼ばれました。

「おまえは大人になったら偉くならなくてもいい。立派だと言われる人になるよう心掛けなさい」

これが私に対する最期の言葉、遺言になってしまいました。

大聖寺住職 青田 暁知

記事提供 到知出版社

## 今月の良い話 「信用力の差は徳の分量の差」

昭和9年の(株)十川ゴムの創業者・十川栄氏に対する指導事例。

十川栄氏は、明治35年、徳島県阿波郡林村に生まれ、大正5年、15歳で単身大阪に奉公に出て、大阪のゴム製品加工会社に就職し、大正14年に(株)十川ゴムを設立し、堅実な経営と優れた経営手腕を発揮して、業界有数の企業に育て上げました。

廣池 「十川さんは、現在どんな商売をしていますか？」

十川 「実は、ちっぽけなゴム工場を経営いたしております。」

廣池 「そうですか。しかし物をつくる工場ではつまらん。

人間をつくる工場でないといけない。世の中には物をつくる工場はたくさんあるけれど、経営者としての使命は、人間をつくることです。その企業をもって、社会または人類のためにできるだけ貢献していくのが経営者の使命なのです。」



十川 「どうも私どもの工場は小さな企業ですので、数字の上では利益が上がっても、実際には赤字になっています。といいますのは、手形で売って、ときには不渡りを受けますので、貸し倒れが出るのです。こういう状態をくり返しているわけなのです。」

廣池 「それは、払わない人間はもちろん悪いでしょう。しかし、貸して返してくれないような相手に物を売らねばならんということは、こちらに徳がないからです。

十川さん、財閥というのは、あなた方みたいな小企業のものには、やり方が横暴のように思うでしょう。

しかし、財閥からあなた方が物を買う場合には、先金で物を買ってもらうでしょう。

そういうことであれば、財閥とあなたの徳の分量、つまり運命は、天地の差がある。

あなたのほうは、貸し倒れになるような相手を持っている。

あなたには、そういう相手を持たねばならんという、その程度の徳の分量しかないのです。それは大きな運命の差だ。

しかし最高道徳をもって世に処していったならば、決して、財閥も恐るに足りません。」

十川 「それでは、具体的にどうしたらよろしいのでしょうか？」

廣池 「それには最高道徳を実行して、運命の建て替えをしなさい。

人様が幸せになるために、せめて自分が犠牲を払い、そして精神的にもできるだけ努力をして、人様のために尽くしていくことによって、運命が開けてゆくのです。」

十川氏に対する指導のポイントは、「信用力の差は徳の分量の差である」ということです。

一般に信用力は、担保能力、企業の財務内容における安定性、企業の成長性などで判断されますが、数字に現れるものだけがすべてではありません。廣池も

「金だけが資本ではない。品性が資本となって、日々の売り出し、外交、仕入れ等の基をなすものである。この品性を進化せしめる実行方法が最高道徳である。最高道徳をやれば万事都合よく信用ができる。これはその品性の力である」

と述べているように、経営者自身や会社の高い品性が信用の大きな要素となります。

十川氏も「これは、私の品性を改善して徳を積んでいかなければいけないということで、こちらの品性が高くなれば、それに相応した人と取引関係ができてくるんだということ」

と述べています。

**事件ファイル NO99 自転車盗**

発生日時 平成 28 年 5 月 17 日 (火) 19 : 16 ごろ  
発生場所 千葉県船橋市  
犯行状況  
犯人はマンション駐輪場にくわえタバコでやってくると、停めてある自転車を一通り見渡し、被害自転車のナンバー式チェーン錠を約 30 秒で開錠し窃取した。  
身長約 167cm・太め・黒色シャツ・白柄短パン・サンダル・ショルダーバック襷掛け・年齢は 30~40 歳前後と見られる。  
被害防止のため、最低でもツーロックを推奨します。

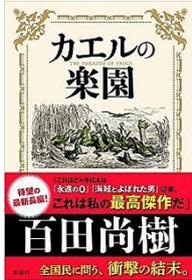


**プロ太の小話集 NO99 『 夫からの電話 』**

女がベッドから出たとき、ちょうど電話が鳴った。女はOKとただただで電話をすぐ切った。  
男 : 「誰からだい？」  
女 : 「夫よ」  
男 : 「じゃあすぐに帰らなきゃ。彼はどこ？」  
女 : 「急がなくていいのよ。夫はあんたとポーカーしてるって言ってたわ」



今月の K-PURO ニュースいかがでしたか？



安倍総理が消費税 10%の延期を決めた後のマスコミ各社は、社会保障制度の財源確保が懸念され、次世代にツケを回すと批判的な記事を掲載していました。少し前までは 10%になると、経済に支障をきたすと言っていたのに、その変わりように驚きを隠せません。個人的には増税延期措置に賛同します。  
さて、イギリスがまさかの EU 離脱にはじまり、年末にはトランプ大統領の誕生？ そうなると中国はさらに日本に圧力をかけ、政府やアメリカの対応を試してくるでしょう。百田尚樹氏の「カエルの楽園」は現在の日本の実情を示しています。

一考の価値はありますので、是非一読をお勧めいたします。(二日で読めます)

注:プロ太とは、写真のK-PURO番犬です (体長 10メートル・体重 1トン・無敵無敗)